

# 日本分子生物学会 若手教育シンポジウム 若手教育ランチョンセミナー2012

## 研究者に必須なコミュニケーション力、発信力、国際力

(ケータイをつかった聴衆参加型シンポジウム)

日時 **2012年12月12日(水)  
11:40~13:00** (年会2日目)

会場 **福岡国際会議場  
5階(第2会場) ※250席**

司会: 小林 武彦(遺伝研), 塩見 美喜子(東京大学)

※お弁当には限りがありますので、12月12日(水)午前8時より、バイテクセミナー整理券引換デスク(福岡国際会議場1階 第1受付)にて『参加整理券』を発券します。第一部と第二部を通して議論に参加下さる方々にお配りします。



第一部 講演 (25分)

### グローバル化する科学のこれから —在米20年で見えてきたもの—

洪 実(慶應義塾大学医学部)

第二部 聴衆参加型パネルディスカッション (55分)

### めざせ! コミュプレ(コミュニケーション、プレゼンテーション)の達人

パネリスト: 日本分子生物学会・若手教育問題ワーキンググループ



※会場の皆様にはご自身の携帯電話・スマートフォンから専用サイトへアクセスしていただき、ご意見を前方スクリーンにリアルタイム表示する『ケータイアナライズシステム』を導入します。

本来、研究は個人で発想し、科学的手法により検証することを基本とします。しかし、技術の高度化、網羅性、迅速性、競争力が要求される今、一人で研究を完結することはほぼ不可能であり、研究体制の組織化や学際化は避けては通れない状況になってきています。これらを実現するには、周りの研究者と情報を交換し、そして議論する「コミュニケーション力」、加えて自分の研究を正しく理解してもらう「プレゼンテーション力」といった、一見“研究の本質”とは違う“社会性”をベースとした能力が必要とされるのは言うに及びません。しかし、ネットを通して溢れんばかりの情報が簡単に手に入るようになった昨今、直接かつ対人的コミュニケーションを苦手とする若手研究者は増加傾向にあり、一方で海外留学を通してグローバル化を図ろうとする若手は減少の傾向にあります。本シンポジウムの第一部では、幹細胞のシステム生物学の第一人者である慶應義塾大学の洪実先生に、世界に目を向けた「研究の、そして研究者のグローバル化」についてご自身の経験を交えつつご講演して頂きます。第二部では、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」を**研究活動の必須要素**と位置づけ、それらを養う極意を極めたいと思います。本シンポジウムが若い研究者の方々の未来を切り開く一助にならんことをワーキンググループ一同、願ってやみません。

主催: 特定非営利活動法人 日本分子生物学会

特定非営利活動法人 日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-11-5 人材開発ビル4階 TEL:03-3556-9600 FAX:03-3556-9611 E-mail:info@mbsj.jp

